

## 「ムササビを飛ばそう (5)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

「飛ぶムササビ」の型紙に色を塗って、切り取ったあとは、しっぽをつけることになる。しっぽは、画用紙で作ってもいいのだが、本物のムササビが滑空している動画を見ると、しっぽをしなやかにゆらして飛んでいるように見える。そこで、柔軟性があって軽い、スズランテープを使うことにした。ケサランパサランを作ったあのテープだ。



しっぽ用のスズランテープは、子どもが自由に長さや色を決めて、切り取れるようにしておいた。ムササビの形態に詳しい子どもが、「しっぽは、ムササビの体の長さと同じぐらいなんだよ。」という情報を広めた。すると、胴体と同じ長さ程度に切る子どもが増えた。(実際は少し短いほうがよく飛ぶ。)



これがしっぽをつけたところ。胴体の裏側に、セロテープで張り付けてある。顔にはおもりのクリップを付ける。尾の先端は、丸く切り取る工夫が見られた。



できあがった「ムササビ」は、さっそく滑空実験に挑戦。ムササビは、自分ではばたいて、前へ進むことはできない。従って、ペーパークラフトのムササビも、力を入れて「飛ばす」のではなく、そっと「離す」。ムササビが、別の樹に移る時をイメージさせるわけだ。



子どもたちは「きっと簡単に飛ぶよ」と思って試す。しかし、ほとんどのムササビは、空中でひっくり返ってしまう。子どもたちは「尾の長さが悪いのかな」「折り方が悪いのかな」「尾を裂いてもっとふわふわにしたらいいかな」といろいろと試す。この試行錯誤が面白い。そしてついに、すばらしい滑空をする「個体」が出現する。こうなるともっと面白い。(つづく)